

5 保守・点検のしかた

5.1 保守・点検のしかた

機械の性能を維持するために、(1)～(4)の点検を定期的に行ってください。

(必ずメインスイッチを切ってください)

- (1) ファンケーシング内部の点検を1～2ヶ月に1度、または機械により異音が続いて発生した場合に行ってください。
 - 1) 本体の左か右側の側板をはずします。
(側板をはずした図は図 5-1 本体側面のとおりです)
 - 2) バンドのビスを緩め、バンドを2次空気取入口側に動かしてください。
 - 3) ファン蓋止ビスを緩め、ファン蓋を2次空気取入口側に動かしてください。
 - 4) ケーシング内部、翼車が見えますので、糠付着がないか確認してください。糠が付着している場合は、糠を取り除いてください。
- (2) 糠ダクトに詰まりがないか定期的に点検・清掃を行ってください。特に、冬期はダクトのエルボ等に糠が付着しやすくなります。ダクトが詰まると、機械の性能が低下するだけでなく、翼車の破損にもつながりますので、定期点検を行うようにしてください。
(1～2ヶ月に1度)
- (3) Vベルトの傷み、緩みがないか定期的に点検してください。(1～2ヶ月に1度)
- (4) 適正流量が流れているにもかかわらず、負荷設定値(緑のLED)まで負荷電流(赤のLED)が上がらない場合は、金網、攪拌ロールの摩耗具合の点検を行ってください。
(図 5-2 操作パネルを参照)

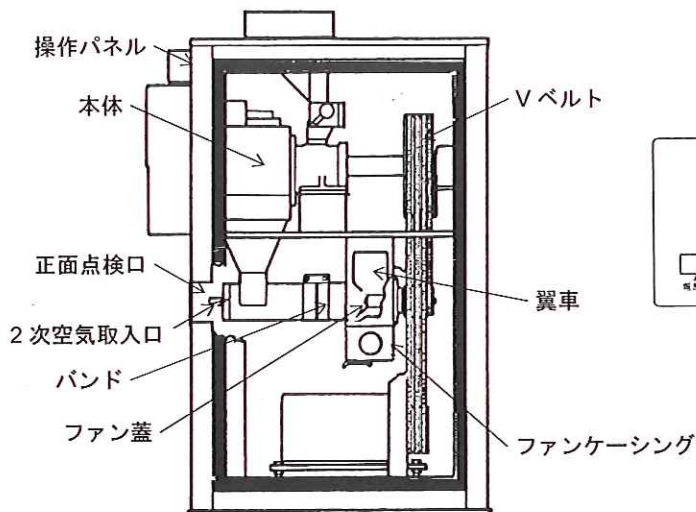


図 5-1 本体側面

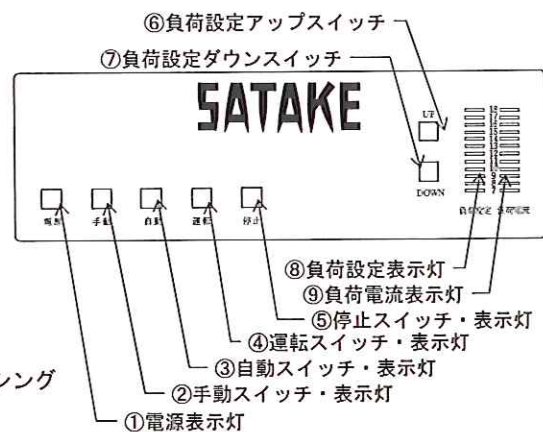


図 5-2 操作パネル

シーズンオフまたは、停止中は電源コネクタをはずしてください。

電源を入れたままでは、雷などの影響で、制御装置が破損する場合があります。